



東邦大学医療センター佐倉病院
発行 広報委員会

自然・生命・人間

東邦大学 学祖 須田 晋・著「自然 生命 人間」より



東邦大学佐倉病院の基本理念

質の高い医療を安全に提供する病院
地域に貢献する病院
人間愛を共有する病院
楽しく明るくチャレンジする病院
良き医療人を育成する病院

〒285-8741 千葉県佐倉市下志津564番地1
TEL | 043-462-8811(代) FAX | 043-462-8820(代)
URL | <http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp>

第10号
(2010.1.1)



新病院長挨拶

佐倉病院の目指すもの — 「一体」

病院長 田上 恵

東邦大学医療センター佐倉病院は平成21年7月1日よりICU8床の全面オープン化に伴い、名実共に451床の大学病院として生まれ変わりました。この時期を同じくして出発いたしました新しい執行部をご紹介いたします。

副院長には、加藤良二先生、寺田一志先生、寺口恵子看護部長、館野昭彦先生に就任して頂きました。

加藤良二先生には管理全般を受け持っていただきますが、それに加え、地域医療連携も受け持っていただいております。

寺田一志先生には教育全般を受け持っていただいています。昨年、4月1日に発足した教育支援室と一緒に、学生・研修医の教育に熱意をぶつけていただきたいと期待しています。「佐倉イズム」が浸透し、全国から研修医が集まってくる病院に、一歩ずつ成長していきたいと考えています。

寺口恵子看護部長には、看護担当はもちろん、その細かな心づかいで院内の環境整備と患者サービスを担当していただいています。

館野昭彦先生には今年6月に受審予定の病院機能評価を担当していただき、バージョン6のクリアを目指します。

また、院長補佐として、鈴木康夫先生に管理（臨床）を、黒木宣夫先生に管理（健康・環境）を、蛭田啓之先生に教育・広報を担当していただいております。

私が目標とするのは「一体」です。

Topix News

新病院長挨拶 佐倉病院の目指すもの — 病院長 田上 恵

執 行 部 挨 捶

「当院が心臓リハビリテーション認定施設になりました」

■認定に至るまでの経緯

■今後の取り組みについて

市民公開講座

～がん撲滅キャンペーン

市民公開講座2009開催～
～地域で考えるケアと治療 認知症と共に歩む「診断と治療」～

■「耳の日」～市民公開講座と耳の健康と補聴器に関する無料相談会

病院における「一体」とは、各医局・各部署が手を携えて「一体」となって医療にあたることです。専門が細分化した大学病院では、ともすれば「これは自分の領域ではない」と背を向けてしまったり、「立場的に僭越ではないか」との懸念から一歩引いてしまったりすることが時として生じ、それが医療上思わぬ空白地帯や空白の時間を作ってしまうことがあります。お互いが一歩ずつ踏み出し「一体」となることで、この問題が解決され、病院は新しく生まれ変わると確信しています。

地域連携でも、患者さんを紹介しあうだけの医療連携から一歩踏み出して、一緒に患者さんを診る、医療連携、医療の一体化がこれからの地域医療の姿ではないかと思います。それらをさらに拡げると地域全体への貢献に結びつきます。現在「地域住民の安全と安心のために」医師会、警察、消防（救急）、企業、行政と連携をとりあっています。この連携が強固なものとなり、「一体」となった時に、住民の満足（幸せ）が生まれることになるでしょう。

「東の佐倉・西の長崎」といわれた医学の発祥のこの「佐倉にハーバード大学をつくろう」という歴代の病院長の叫びかけに、全国の大学から優秀な人材が集まっています。まさに「医療の町・佐倉」を創設するために、教職員が一丸となり、地域の皆様と一体となった病院を目指しています。

執行部挨拶



加藤 良二

副院長／管理担当

昨年7月から診療・管理を担当しています。「どうせやるなら明るくやらなきゃ」をモットーに、患者さんが笑って治療を受けるようにしたいと思っています。専門は外科で一般・消化器から呼吸器まで何でもこなします。免疫制御が生涯の研究テーマで「優しい外科」を目指します。「生きるのに真面目」が好きな言葉で、人と接するのに正直で、素直でありたいものです。若い人との宴会が大好きですが、搖るぎなき信念を持って正しい信じる医療を行なうことが信条です。

寺田 一志

副院長／教育担当

昨年7月より教育関係を担当しております。佐倉病院は医学部付属病院です。その存在意義は地域での高度医療の提供にあります。その為には医師会の先生方との分業が大事だと思っています。

例えば、佐倉病院の市民公開講座は、佐倉病院の外来患者を増やすのが目的ではありません。高度な医療に対する正しい理解を通じて、市民の方々に適切な受診をして頂くのが目的と考えています。若輩ものですので、御支援・御鞭撻の程、どうか宜しくお願ひ申し上げます。

館野 昭彦

副院長／医療機能評価担当

日本医療機能評価機構受審の責任者として第4期目の副院長を拝命いたしました。第3期までは、教育ならびに地域医療連携に力を注いで参りました。同時に院外においては、印旛市郡小児救急体制構築や佐倉市生活習慣病対策等に係わる仕事もさせて頂いております。今後も院内・外を問わず、副院長として、また小児科専門医として、地域社会に貢献したいと考えております。ご指導・ご協力下さいますようお願ひ申し上げます。

寺口 恵子

副院長／看護担当

昨年7月1日より田上恵病院長の元、新執行部での病院経営がスタートしました。前期に引き続き看護担当副院長を拝命し、身を引き締めているところです。病院職

員の中で最も人数の多い看護職員は何をするにも最前線で活動しており、その活動を支え、労働環境を整え、質の高い看護を維持・向上させる役割を担っているのが看護部長であると思っています。念願の新棟がオープンし、これからは更に医療の質を高め、地域から信頼される病院を目指して、全教職員が一致団結できるよう、微力ながら努力いたしますので、御支援・御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

鈴木 康夫

院長補佐／管理（臨床）担当

栄養管理・治験・外来診療部門を中心に執行部の一員として佐倉病院の運営に関わって参ります。食質の向上による疾病予防から治癒を目指し外来・入院栄養管理の向上に努める所存です。大学病院には治験業務を通じ新規治療法を開発・確立する責務があり、先進的医療の発展に大きく寄与する病院を目指し治験業務を推進する所存です。当院の顔・医療連携の要であることを肝に銘じて外来業務・環境の向上に努める所存です。今後ともより一層のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

黒木 宣夫

院長補佐／管理（健康・環境）担当

近年、医療機関に対する国民の目はますます厳しくなり、必然的に病院は安全管理と同時に健康管理対策に取り組まざるを得ない時代となりました。精神障害で労災認定された人も昨年度は最多（269件）を更新し、医療福祉関係者の労災認定件数は第三位を占めており、当院も病院としてメンタルヘルスケアに取り組む所存です。衛生委員会等の健康管理を担当しております。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

蛭田 啓之

院長補佐／教育・広報担当

院内の教育および院内外の広報を担当しており、診療は臨床検査・病理診断に携わっています。病院広報誌やホームページを通して地域の皆様に佐倉病院を知って頂き、市民公開講座の企画や近隣の医療機関の病理診断などで地域医療の発展に多少とも貢献したいと考えております。

「当院が心臓リハビリテーション認定施設になりました」

脳卒中多発国であった日本においては、リハビリ＝脳卒中という概念が定着していますが、心筋梗塞が多発した欧米諸国においては心臓リハビリテーション（以下、心リハ）が積極的に行なわれています。心リハは質の高い循環器診療を行なう上で、必要不可欠な医療分野ですが、多くの人手と時間、情熱を要するため、施行可能な施設は非常に限られています。

そんな中、2009年5月当院は千葉県で最もレベルの高い心臓リハ施設としての認定を受けました。



認定に至るまでの経緯

当院は過去には心疾患リハビリテーション認定施設を取得していたものが、2006年の認定施設基準改訂に伴い、いったん取り消しとなりました。

そこで、一念発起、循環器センターとしての取り組みをはじめました。まず最初に取り組んだことは、2005年12月より心リハワーキンググループを発足し、スタッフの共通認識を構築するため参考書を用いた勉強会を毎週行ないました。2007年からは心リハ指導士の試験を受験し、6人が指導士の免許を取得しました。2008年4月心大血管リハビリ認定施設基準が見直され、12月より認定施設再取得に向けて心リハ室でのリハビリが始まりました。改訂された心リハ基準では、専任医

師に加え、専任看護師・専従理学療法士が必要であり、コメディカルスタッフの協力が必要不可欠でした。また、認定施設取得に際し、事務部の協力もあって、昨年5月より指導士が在籍する千葉県で4番目の心リハ認定施設となることができました。

専門の医師・看護師・理学療法士が心リハをすることにより、リハビリ施行時のリスク管理・患者教育・運動処方・指導・研究など多彩な面で改善され、理想的な心リハ施設となることができました。苦労も多かったですが、これでよりよい医療を患者さんに提供できると自負しています。

今後の取り組みについて

現在、循環器病棟看護師は心リハに関しての勉強会を月1回行なっており、また心リハの症例カンファレンスを週5回・勉強会を週1回行なっております。昨年新たに2名が心リハ指導士の免許を取得しました。今後も当院での心リハをさらに質の高いものにしていきたいと思っています。

（循環器センター：平野圭一）



市民公開講座



～がん撲滅キャンペーン市民公開講座 2009開催～平成21年9月26日

外科
長島 誠

この公開講座は、9月のがん征圧月間期間中に、東邦大学医療センター大森病院、大橋病院を含む、東京・千葉の5病院が、がんの早期発見、早期治療に関する社会的な関心を喚起することを目的とし、各講座の内容は各々の病院の特徴を踏まえて企画されました。佐倉病院では、「最先端のがん治療」をテーマに選び、胃がん・大腸がん、肺がん、乳がんまた緩和ケアに関し、各疾患の概略、診療体制、最先端の診断および治療方法を地域住民の方々に、ご説明させていただきました。当日は、約50名の一般市民の方々と約30名の病院スタッフの出席があり、皆様のがん診療に対する注目度の高さを感じられました。同時に行なわれた医療相談においても、一般市民の方々から多くのご質問が寄せられ、今後の診療に多いに参考となる内容でした。

我々外科は、内科、放射線科、病理部だけでなく、多くの院内の部署と連携しながら、より質の高い診断と治療を実施していくよう、診療体制の整備、外科を志す若い医師の確保等に、努力を継続していきます。また、日常診療だけでなく、臨床研究の推進、卒前・卒後教育の充実等、東邦大学の付属機関として、また地域の中核病院としての使命を果たすべき課題は、たくさんあります。現在、外来化学療法室の運用が開始され、患者様が従来よりも快適な環境で抗がん剤治療を受けられる体制が整いました。今後は、放射線療法の実現、緩和ケアの充実、地域のがん診療の連携協力体制の構築等、目標を明確に掲げて、地域がん診療連携拠点病院認定の実現に向けて、頑張っていきたいと考えています。今回の市民公開講座をきっかけに、我々自らが、佐倉病院から地域社会に出向き、がんは早期に発見し治療すれば、決して恐ろしい病気ではなく、十分に治癒可能であることを、住民の皆様に啓蒙し、「がん撲滅」に貢献していきたいと考えています。



～地域で考えるケアと治療 認知症と共に歩む「診断と治療」～ 平成21年10月31日

言語聴覚士
治田 寛之

高齢化等により認知症に対する社会的関心が高まる中、当院の認知症治療の中核を担う、神経内科、メンタルヘルスクリニック、脳神経外科の3診療科（いわゆる神経3科）が企画し、市民の皆様や当院通院中の患者様とご家族、ケアマネージャー他関係者180名をこえるご参加を得て「認知症の市民講座」が開催されました。

冒頭に蕨佐倉市長よりご挨拶を賜り、神経3科による認知症の概要と治療法、精神症状の解説と対応、正常圧水頭症の外科治療についての講義があり、薬剤師からは薬物療法、リハビリテーション部門からは、心とからだの良い循環の作り方について解説し、また、臨床心理士による認知症患者様の心理、ソーシャルワーカーによる医療介護ネットワークに関する講義が行われました。このような多職種による市民講座は全国でも例が少なく、当院の機動力・団結力が故に実現できたと思っております。ご参加下さいました皆様は、それぞれの話にうなずきながら熱心に聞き入って下さいました。この機会に病気の理解を深め、日頃の疑問点を解消することで、当院が行う認知症のトータル治療・ケアをご理解していただけたものと思います。

「耳の日」～市民公開講座と耳の健康と 補聴器に関する無料相談会

日時：平成22年3月7日（日）

午前10:00～午後4:00

場所：東邦大学医療センター佐倉病院7階講堂

主催：日本耳鼻咽喉科学会千葉県地方部会

■ 今後の市民公開講座開催予定

「地域で考えるケアと治療

～歩行障害と共に歩む～診断と治療」

日時：平成22年4月3日（土）

午後2:00～午後5:00

場所：東邦大学医療センター佐倉病院 7階講堂